

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2010 年 10 月 30 日

派遣者氏名（専門分野）	松本ひとみ（文化動態論専攻 アート・メディア論コース）
-------------	-----------------------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	イギリスにおけるコミュニティアートと文化政策 —1970～80年代のタワーハムレッツ地区を中心に—
-------	--

派遣期間

2010 年 9 月 1 日 ～ 2010 年 9 月 21 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	イギリス	ロンドン	LSE Library	なし
	イギリス	ロンドン	Central Saint Martins College of Art and Design	Keith Whittle
	イギリス	ロンドン	Visiting Arts	Sioned Hughes
	イギリス	ロンドン	なし	西原 佐季子
	イギリス	ロンドン	Muse Company	伊地知 裕子

派遣先で実施した研究内容

私は正規の滞在（9/1～9/9）に加え、滞在期間を12日間（9/10～9/21）延長させていただき単独で調査を行った。

私の論文題目は「イギリスにおけるコミュニティアートと文化政策—1970～80年代のタワーハムレッツ区を中心に—」である。コミュニティアートとは、1969年前後、ロンドンのイーストエンド地域で始まったとされる。私を取り上げるのはユダヤ、ユグノー教徒、（後には）インディアンコミュニティ等を含むタワーハムレッツ区である。この地区におけるコミュニティアートは、フットボールのフェスティバルが始まりである。日常の労働生活から離れる一種の「祭」をつくり地域住民を参加させることで、もともとその地区に住んでいた層と、労働者として新たに流入してきた移民とを並列し顔を合わせる場を作ったと考えられる。1971年以降、マギー・ピンホーンという人物の導きにより、地域住民が制作の主体者となるかたちで、フィルム制作、詩の朗読などが行われるようになり、ベースメント・プロジェクトとよばれた。本研究ではこの事例を取り上げ、文化政策との関わりを含め、その変遷を辿りまとめる。

研究の特性上、論文を完成させるためには資料調査のみではなく以下のことが必要であった。

- (1) 実践者への聞き取りおよび現場視察
- (2) タワーハムレッツ区でのフィールドワーク
- (3) 個人所有のフィルム『TUNDE' S FILM』入手

まず資料調査においては、LSEのライブラリーを中心に資料探索を行った。

資料調査を終えたあとは、現場視察および関係者へのインタビューを行った。視察に行った場所はWhitechapel Gallery、alternative arts (www.alternativearts.co.uk)、Whitechapel地区など

である。また四名にインタビューを行った。インタビューを行う過程で、同時に『TUNDE' S FILM』の探索を行った。

また、タワーハムレッツ区は特色の強い地域であるため、歩いて見て回ることは重要だった。特に Whitechapel Gallery や alternative arts のあるエリアは、1970～80 年代当時と様相は異なっているといえども、当時の様子がかげえ、今後のインタビューや文献調査をする上でたいへん有意味であった。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

資料調査における成果は、アーティストの発行物やプロジェクトの報告書といった日本で手に入らない資料が手に入ったことであった。コミュニティアートは、取り組むものがどのような考えを持ってそれを行うのかを説明する「マニフェスト・ペーパー」を発行した例があるのが特徴の一つであるが、そのうちのいくつかを入手することができた。また、1970～80 年代当時の代表的なコミュニティペーパー（地域で読まれる新聞）である「EAST END LINK」および「TOWERHAMLETS VOICE」がある程度まとまって入手できたことも成果であった。コミュニティペーパーに日々掲載される記事や告知を集積することでプロジェクトのより具体的な姿が浮かび上がってくるであろう。

インタビューでは、実践者と援助者のそれぞれの立場から意見を伺うことができた。イギリスに滞在する日本人の方々へも訪問することができ、日本とイギリスでのアートの捉え方の違い、現場で働く方の独特の感覚をも伺い知ることができた。

インタビューを行う過程で、同時に『TUNDE' S FILM』の探索を行った。これは、ベースメント・プロジェクトにおいて制作された代表的なフィルムで、マギー・ピンホーンの指導によって地域の子ども達が制作に取り組み、彼らの生活において何が問題で、何を变えたいと思うかを記録することが目的であった。『TUNDE' S FILM』はこれまで手に入れることができていなかった。当時、関係の深かったはずの Whitechapel Gallery のアーキビストに訪ねるなどしたが手がかりはなかった。そこで、人づてに情報を得られないかと思い相談を繰り返していたところ、インタビューを受けて下さったうちの一人、西原さんの友人が、フィルムどころか、マギー・ピンホーンさん本人の連絡先を知っていることが判明した。現在も、活動内容を変え、タワーハムレッツ区に事務所を構えていることがわかり、事務所を訪問することに成功、フィルムは DVD に焼き直したものを提供して頂けることとなった。

派遣後の研究発表の予定

文化政策学会（2010 年 12 月）・・・交渉中。

2010 年度中に修士論文にまとめる予定。